

# 知的障害のある生徒が創造的に発想し表す力を高める美術科指導の工夫 — 抽象表現に関する指導ブックの作成及び活用を通して —

広島県立福山北特別支援学校 柿木 はるか

## 研究の要約

本研究は、知的障害のある生徒が創造的に発想し表す力を高める美術科指導の工夫について追究したものである。所属校の生徒は、美術科の授業に意欲的に参加しているが、「絵を描くこと」に対して具象的で概念的な表現のイメージがあり、「うまく」形が取れない、「きれい」に着色ができないなどの体験により挫折を感じ、表すことに対して消極的になっている。また、所属校の教職員は、発想や構想の力を引き出す題材や、評価について難しさを感じている。文献研究から、具体的なものを描かない抽象表現は、既存のものに捉われずに発想を広げ表す創造的な表現活動であり、表すことに苦手意識のある生徒にとって、有効な表現方法であることが分かった。そこで、障害特性に応じた抽象表現に関する指導ブックを作成・活用し、平面及び立体の指導を行った結果、抽象表現に関する指導ブックを作成・活用した授業を行うことは、知的障害のある生徒が創造的に発想し表す力を高めることにおいて、有効であることが分かった。

## I 研究の基本的な考え方

### 1 創造的に発想し表す力とは

文献研究から、本研究における「創造的に発想し表す力」とは、これまでの経験や既習の知識を生かし、感じ取ったことや考えたことを思いつき、生徒自身が新しいものを作り出す喜びを感じながら実現に向けて作っていくことであると考えられる。本校の生徒は、美術科の授業において、意欲的に授業に参加している一方で、「絵を描くこと」に対して、具象的で概念的な表現のイメージが強くあり、「うまく」形が取れない、「きれい」に着色ができない、描きたいものが見付からないなどの体験により挫折を感じ、表すことに対して消極的になっている。また、所属校の教職員は、「知的障害のある生徒への発想や構想の能力を引き出す題材が思い浮かばない。」「評価が難しい。」などの難しさを感じている。

### 2 知的障害の特性と指導・支援

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）（平成30年、以下「自立活動編」とする。）では、知的障害のある幼児児童生徒は、「概念を形成する過程で、必要な視覚情報に注目することが難しかったり、読み取りや理解に時間がかかったりすることがある。」と示されており、具体的には「興味・関心のあることや生活上の場面を取り上げ、実物や写真などを使って見たり読んだり、理解したりすることで、確実に概念の形成につなげていくよう指導することが大切である。」と示されている。

また、特別支援学校学習指導要領各教科等編（小学部・中学部）（以下、「各教科等編」とする。）では、知的障害のある生徒の学習上の特性として、「成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことが多い。」と示されている。さらに、「自立活動編」では「本人が容易にできる活動を設定し、成就感を味わうことができるようにして、徐々に自信を回復しながら、自己に肯定的な感情を高めていくことが大切である。」と示されている。

これらのことから、知的障害のある生徒には、概念を形成させるため、生徒の興味・関心のある題材を選ぶこと、生徒の興味・関心や得意な面を考慮し、目的が達成しやすいような容易な活動から段階的に行うことができる題材を設定することが重要であると考えられる。

### 3 特別支援教育における美術科教育の意義と知的障害のある生徒の美術科の作品評価

文献研究から、特別支援学校的美術科の学習活動は、具体的な成果物として作品を残すことで、鑑賞活動等を通して生徒が自分の中に新しい意味や価値をつくりだすことにつながると考え、有用な学習であると言える。また、知的障害のある生徒への美術科の評価について、「作品による評価」及び、知的障害のある生徒の実態に応じて、指導者が聞き取り等によって行う「聞き取り等による評価」の二つの

観点によるルーブリックを作成し、学習評価をすることが適切であると考えます。

#### 4 抽象表現に関する指導ブックの作成

##### (1) 抽象表現の有用性

絵画の表現方法を大別すると、具体的なものを描く具象表現と、具体的なものを描かない抽象表現とに分けられる。文献研究から、抽象表現は、具体的な再現描写ではなく、既存のものに捉われずに発想を広げることができ、「絵を描くこと」に苦手意識のある知的障害のある生徒にとって、創造的に発想し表すことのできる有効な表現活動であると考えられる。

##### (2) 表現と鑑賞の活動の関連

表現と鑑賞の活動の関連について、「各教科等編」では、「表現と鑑賞の指導の関連を図る際には、鑑賞の学習において、単に表現のための参考作品として、表現的に作品を見るのではなく、発想や構想と鑑賞の学習の双方に働く中心となる考えを軸にそれぞれの資質・能力が高められるようにすることが大切である。」と示されている。また、山根智香子（平成29年）は、表現と鑑賞の活動に関して、「表現と関連させる鑑賞の活動を適切な場面に設定することにより、多様な表現に関わる資質や能力を育成することができる」と述べている。これらのことから、知的障害のある生徒が創造的に発想し表す力を高めていくことができるよう、鑑賞活動を行うタイミング、取り上げる題材を十分考慮し学習を進めていくことが大切であると考えます。

##### (3) 抽象表現に関する指導ブック

抽象表現に関する指導ブックは、1 抽象表現に関する学習プログラム（図1）、2 知的障害の学習上の特性に応じた指導・支援、3 ルーブリックによる学習評価の例で構成する。

表1 抽象表現に関する指導ブック（一部抜粋）

次	授業者	主な学習内容の流れ	知的障害の特性に応じた指導・支援
-	ためして、さわって、どんな感じ？ （表現）	1. いろいろな描画材や材料に触れ、慣れ親む。 2. いろいろな描画材や素材から感じたことを言葉等で表す。 3. 感じたことや考えたことを基に、表したいこと（主題）を決めて、点（かたまり）や線（ひも）を合わせて描いたり、つくったりする。	◎ 点（かたまり）、線（ひも）、点（かたまり）と線（ひも）を組み合わせて描く・つくるなどの容易な活動から段階的に活動を設定することで、成功体験を積み重ね自信をもたせる。 ◎ 素材の特徴に気付かせたり、素材に触れることを通じて感じたことや考えたことを表出させる支援として、心情等の簡単な言葉と、それに対応するイラストによる、「どんな感じ？」の言葉表を用いる。
		1. 代表者が制作する様子を鑑賞する。 ①表現の特徴や工夫（形、動き、強弱、感じる音など）を見付ける。 ②表現の特徴や工夫（形、動き、強弱、感じる音など）を基に、作者が表したいこ	◎ 表現の特徴や工夫（形、動きや強弱、感じる音など）に気付かせる手立てとして、表し方の工夫を具体的に示した図やイラスト、具体物等を用意して、視覚的な支援

表2 抽象表現に関する指導ブック（一部抜粋）

次	評価標準	ルーブリック（評価基準）
-	素材に触れたり、（描画材を）試したりすることを通じて、感じたことや考えたことについて、「楽しい」「迫力ある」などの心情等の具体的な言葉で表し、表現からそのことを読み取ることができる。 【知識及び技能】	A 素材に触れたり、（描画材を）試したりすることを通して、感じたことや考えたことについて、「楽しい」「迫力ある」などの心情等の具体的な言葉で表し、表現からそのことを読み取ることができる。
		B 素材に触れたり、（描画材を）試したりすることを通して、感じたことや考えたことについて、「楽しい」「迫力ある」などの心情等の具体的な言葉で表すことができる。
		C 素材に触れたり、（描画材を）試したりすることができる。
-	言葉からイメージを広げ、それを表すための工夫（形、動き、強弱など）を考えて絵や立体で表し、表現からそのことを読み取ることができる。 【思考力・判断力・表現力等】	A 言葉からイメージを広げ、それを表すための工夫（形、動き、強弱など）を考えて絵や立体で表し、表現からそのことを読み取ることができる。
		B 言葉からイメージを広げ、それを表すための工夫（形、動き、強弱など）を考えて絵や立体で表すことができる。
		C 絵や立体で表すことができる。

## II 研究のまとめ

### 1 研究の成果

- 「指導ブック」の一つである「抽象表現に関する学習プログラム」に基づいた指導を行うことは知的障害のある生徒の創造的に発想し表す力を高めることに有効であることが分かった。
- 抽象表現は、絵を描くことに消極的な知的障害のある生徒にとって、意欲的に学習に取り組むことのできる有効な表現活動になることが分かった。

### 2 研究の課題

- 作成した「指導ブック」について、複数の指導者が活用しやすいものであったか検証できたわけではない。したがって、今後、「指導ブック」が全ての指導者にとって有効なものであるかを検証していく必要があると考える。
- ルーブリックの妥当性を高めるため、複数の教員で評価を行うなどして、より妥当性の高いものとしていく必要があると考える。

### 【引用・参考文献】

- 1) 文部科学省（平成30年）：『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）』開隆堂出版
  - 2) 文部科学省（平成30年）：『特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）』開隆堂出版
  - 3) 山根智香子（平成29年）：「『絵に表す活動』における多様な表現力をはぐくむ鑑賞の活動の工夫—鑑賞と表現をつなぐ『見て、感じて、生かそうシート』の活用を通して—」『広島県立教育センター平成29年度全・後期教員長期研修報告書』
- 中央教育審議会（平成28年）：『幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）別添資料9-1 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において育成を目指す資質・能力の整理』